令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）
全国・県と比較して　±５％の差が見られる内容を中心に分析した。

【　国語　】

≪情報の扱い方に関する事項≫

○県・全国と比較して正答率が高い傾向にある。情報と情報との関係の様々な表し方を理解していると考えられる。

≪話すこと・聞くこと≫

○目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができている。

●互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめることに課題が見られる。日常的な話し合い活動の中で、他者の意見を受け入れながら着地点を見つける経験を積ませていきたい。

≪書くこと≫

●すべての問いについて、県・全国と比較して正答率が低い傾向にある。気持ちがより伝わるように表現を工夫したり、書いた文章のよい点や改善点を見つけたりする力を身に付けさせたい。自分の気持ちを言語化する機会や生徒同士の交流を増やし、相手により伝わる表現を主体的に考えさせる授業を展開していきたい。

≪読むこと≫

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをより確かなものにすることができている。

●文章の中心的な部分と付加的な部分について、叙述を捉えることに課題が見られる。

≪生徒質問紙 国語に関する質問≫

○８割以上の生徒が「国語の学習は将来社会に出たときに役に立つ」と実感している。学習の意義を理解し、前向きに取り組む姿勢が育っている。

【　数学　】

≪数と計算≫

○単なる計算問題や、解答を選択肢から選ぶ短答式の問題は、概ね解くことができている。

●「数と式」領域の正答率は、県・全国と比較してやや低い傾向にある。問題文から数量の関係を読み取り、自分で等式をつくるなど、記述を伴う問題に課題が見られる。式の根拠を説明し合う活動を取り入れ、考えを表現する力を育てていきたい。

≪図形≫

○角度を求める計算や、合同条件を選択する問題は、比較的よく解けている。

●「図形」領域の正答率は、県・全国と比較してやや低い傾向にあり、特に証明の記述問題では無答が目立つ。図形に注目した理由や等しいといえる根拠を部分的に書く練習から段階的に取り組ませ、証明を記述する力を育てていきたい。

≪関数≫

○グラフの数値を読み取る問題や、式を選択する短答式の問題は、概ね解くことができている。

●「関数」領域の正答率は、県・全国と比較してやや低い傾向にある。関数が成り立つ理由を言葉や数式で説明する問題に課題が見られる。グラフや表の意味を自分の言葉で説明する活動を取り入れ、関数の理解を深めていきたい。

≪データの活用≫

○平均値の計算や、ヒストグラムから値を読み取る短答式の問題は、概ね解くことができている。

●「データの活用」領域の正答率は、県・全国と比較してやや低い傾向にある。統計的な根拠を基にデータを比較し、考えを記述する問題に課題が見られる。四分位数や範囲などの数値を根拠として示すことを意識させ、論理的に説明する力を育てていきたい。

≪生徒質問紙 算数に関する質問≫

●自分の考えを式や言葉、図などで表現する活動や、グループ等で考えを発表する機会について、全国平均を下回る結果となった。授業の中で自分の考えを表現し、互いに伝え合う活動を充実させていきたい。

【　英語　】

≪聞くこと≫

○教科書の内容を用いたリスニング練習を継続しており、正しい選択肢を選ぶことができている。

●数字や序数の聞き取りには、依然として課題が見られる。今後も繰り返し練習する機会を設け、聞き取る力を育てていきたい。

≪読むこと≫

○教科書の内容を通して読む習慣が身に付きつつあり、読む力の育成につながっている。今後は英文の語数が増えることを踏まえ、制限時間内に内容を読み取る練習を充実させていきたい。

●物語文の読み取りについては、調査時点での学習状況も踏まえ、今後の授業で補充していきたい。

≪書くこと≫

○１年次から継続して書く活動に取り組んできた成果が見られる。特に、昨日の出来事や中学生の思い出、留学生と一緒にしたいことなど、授業で扱った内容については、定着している生徒が多い。今後も書く機会を継続して設け、表現力の向上を図っていきたい。

≪話すこと≫

○ペアでの会話活動を継続しており、留学生と一緒にしたいことや、自分のまちを訪れるのによい季節について、理由を添えて話すことができる生徒が多い。

●社会的な話題について答えることには課題が見られる。様々なテーマで話す活動を取り入れ、自分の考えとその理由を英語で表現する力を育てていきたい。

≪生徒質問紙　英語に関する質問≫

○英語の学習が将来役に立つと考えたり、将来、積極的に英語を使いたいと考えたりする生徒が多い。

●一方、「英語の授業は好きですか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」という質問には課題が見られる。教科会や校内研究会等を通して指導方法を改善し、生徒の理解と学習意欲を高める授業づくりを進めていきたい。

◎生徒質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等

○朝食・睡眠など、基本的な生活習慣の定着
○スマートフォン等の適切な利用（利用時間・使用方法）
○自己肯定感や、自分のよさに対する認識
○学校生活・日常生活における充実感
○読書習慣の定着と図書館の活用
○学習における ICT の活用技能
●一人一人の学びに応じた授業づくり・学習支援
●自分の考えを表現し、互いに認め合える学級風土づくり

日々の生活の中で「幸せを感じる」「自分にはよいところがある」と回答した生徒が多く、自己肯定感や生活の充実感について、肯定的な傾向が見られた。このことから、学校や家庭における肯定的な関わりや声かけが、生徒の前向きな意識を支えていることがうかがえる。また、基本的な生活習慣やスマートフォン等の利用に関する項目でも、全体として良好な結果が見られ、家庭との連携が一定の成果につながっていると考えられる。

一方、一人一人に応じた学び方や教材の工夫など、「個別最適な学び」に関する項目については、調査結果を踏まえ、さらなる充実を図る必要がある。また、生徒が安心して自分の考えやよさを表現できることに加え、互いの考えやよさを認め合うことができる学級風土の形成に向けて、調査で明らかになった課題を日々の教育活動に反映していく必要がある。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

◎ 自分の考えを言葉や文章、式、図などを用いて表現する力を育成するため、各教科の授業において、自分の考えを整理して書いたり、互いに説明し合ったりする活動を充実させる。特に、考えをまとめきれない生徒や記述問題に苦手意識をもつ生徒に対しては、考えの一部や解決の手順から表現する機会を設け、段階的に表現力を高めていく。

◎ 根拠を基に考え、説明する力を育成するため、文章や資料、グラフ、表、数値などから必要な情報を読み取り、それらを活用して自分の考えを説明する学習活動を充実させる。答えを導くだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのような根拠があるのか」を問い直すことで、論理的に考え、表現する力を育てていく。

◎ 生徒同士が互いの考えやよさを認め合い、学びを深められるよう、発表や話し合いの場面では、他者の意見から学んだことやよかった点を伝え合う活動を取り入れる。また、異なる意見を尊重しながら考えを比較・検討し、よりよい結論を導く経験を積ませることで、協働して学ぶ力と安心して自分を表現できる学級風土の形成につなげる。

◎ 一人一人の理解度や学習状況に応じた指導を充実させるため、学習課題や教材、支援の方法を工夫し、生徒が自分に合った方法で学習に取り組めるようにする。基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、理解が進んでいる生徒には発展的な課題を用意するなど、すべての生徒が自分の力を伸ばせる授業づくりを進める。

◎ 学習の意義を実感し、主体的に学ぶ姿勢を育てるため、学習内容と日常生活や将来とのつながりを意識できる課題や活動を取り入れる。また、生徒の努力や成長、よさを具体的に認め、適切な助言や振り返りを通して達成感を得られるようにする。教科会や校内研究会等で調査結果や授業実践を共有し、継続的な指導改善に取り組む。